

<持ち込み布の選び方>

このワークショップでは、スタイロフォームの下地の表面にあらかじめ切られた溝に綿を挟みながら布の端を差し込んで摩擦で固定していくことを繰り返して下地全体を布で覆うことによってソファを完成させます。

画像1が下地です。溝の切られた方向がわかるように矢印札を差し込みました。



[画像1]

木目込み人形と同じように、溝は一筆書きの閉じた曲線で 1 区画を構成しています。そして合計8つの区画によってすき間なく下地を覆っています。

このように曲面を布で覆うとき、使用する布地によって難度や仕上がりが大きく変わってきます。

原則として以下のような生地が適しています。

薄い(但し透けない)、伸縮性がある、織目が詰んでいない、端がほつれない、滑らない、裂けない

適合しない生地具体例は以下の通りです。

エナメル(差し込みにくい)、サテン(滑る)チャイナブローケット(ほつれる)、ジャガード(厚くてほつれる)、ゴブラン(厚くてほつれる)、革(極薄のラムスキン以外は無理)、金襴・緞子・畳のへり(厚い)、帆布(厚くて硬い)

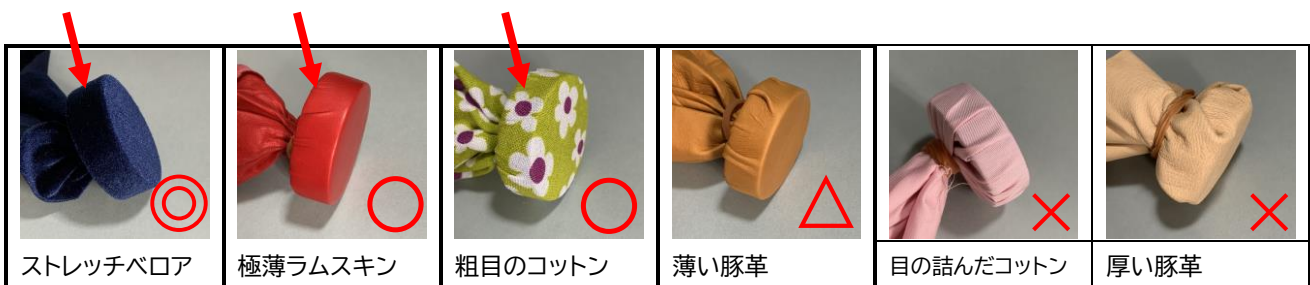
適合する生地具体例は以下の通りです。

薄く伸縮性のある合皮(ミネソフト推奨)、薄いツイード、ストレッチベロア、ジャージ、織目の粗いコットン

他にもいろいろな種類の生地がありますが、厚さと伸縮性については、以下の方法である程度適合性が見分けられます。

マスキングテープを布で包んで輪ゴムで縛ってみてください。

縛った側の縁がしっかり見えてしわがなるべく目立たない布が適しています。



実際にソファを張ってみましょう。

画像2、3とも薄いコットンを使用していますが、仕上りに大きな差があります。(画像3は区画ごとに色を変えていますが同じ種類の布です)

その原因は画像4の拡大画像で分かります。目の粗い方が曲面にフィットしやすく自然な仕上りになっています。



[画像2]



[画像3]



[画像4]

せっかく手間をかけて製作するので、なるべく楽に綺麗に仕上げてくださいと思います。とくに初めて参加する方は、なるべく適合度の高い生地をお持ちください。